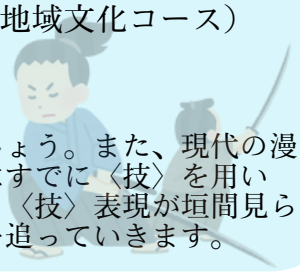
県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima

日本文化における視覚化・映像化

日本人は文字や口承で語られた世界観を、演劇・絵画などで視覚化し、具体化して表象してきました。絵巻などはその代表格です。絵巻には動きも表現されており、現代の漫画やアニメにもつながるメディアと言えるでしょう。本講座では、日本文化において、物語がいかに視覚化・映像化して親しまれてきたかを、古典文学・近現代文学の視点から深掘りしていきます。
（※各講座の前に、図書館または文書館の利用ガイダンス（10:15～10:30）を実施いたします。）

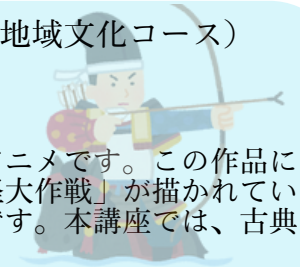
日時	令和７年 ①7月17日(木) ②7月24日(木) ③7月25日(金) 10:15～12:00
会場	広島県立文書館研修・会議室（広島市中区千田町3丁目7-47　広島県情報プラザ２階）
募集対象	日本の歴史や文化に関心をもつ方
定員	30人
受講料	無料

第1回　7月17日(木) 10:15～12:00　講師：目黒　将史　准教授（地域創生学部　地域文化コース）
★図書館利用ガイダンス　10：15～10：30（15分）



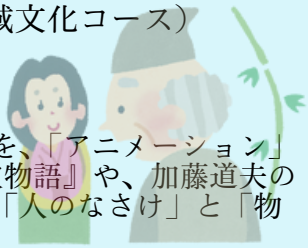
チャンバラの原点―〈技〉の文化史―
主人公が敵役と刀で大立ち回りを演じる。このような物語はいつ頃から語られるのでしょう。また、現代の漫画に描かれる「必殺技」は、いつの時代からあるのでしょうか。実は『平家物語』にはすでに〈技〉を用いた、芸能化した戦いが描かれています。そして室町時代の物語草子になると、さらなる〈技〉表現が垣間見られるようになってきます。本講座では、現代の活劇や漫画につながる〈技〉の文化史を追っていきます。

第2回　7月24日(木) 10:15～12:00　講師：目黒　将史　准教授（地域創生学部　地域文化コース）
★文書館利用ガイダンス　10：15～10：30（15分）



『平成狸合戦ぽんぽこ』から文化継承を紐解く
高畑勲監督『平成狸合戦ぽんぽこ』は都市開発に反対する狸たちをコミカルに描いたアニメです。この作品には、『平家物語』「扇の的」を再現した場面や『百鬼夜行絵巻』などをもとにした「妖怪大作戦」が描かれています。これは、高畑勲が古典の物語を、現代の文化として甦らせたと言ってよいものです。本講座では、古典文芸・絵画から『平成狸合戦ぽんぽこ』に至る、文化継承を紐解きたいと思います。

第3回　7月25日(金) 10:15～12:00　講師：福田　涼　講師　（地域創生学部　地域文化コース）
★図書館利用ガイダンス　10：15～10：30（15分）



「物語」が生まれるとき―『かぐや姫の物語』を「読む」―
高畑勲による長篇アニメーション映画『かぐや姫の物語』（スタジオジブリ、2013年）を、「アニメーション」や「物語」に対する「メタ批評」として読み解きます。具体的には、原典である『竹取物語』や、加藤道夫の詩劇『なよたけ』（1946年）等の先行作品も視野に入れつつ分析を施すことで、本作が「人のなさけ」と「物語」との関係をどのように描き出しているかを浮き彫りにします。

申込方法・申込先　下記の（１）または（２）の方法でお申し込みください。

（１）下記のURLまたはQRコードをご参照のうえ、リンク先の申込フォームからお申し込みください。

https://forms.office.com/r/xz9qgsV0Wj

（２）往復はがきの往信面の裏に①郵便番号②住所③お名前(ふりがな)④電話番号を、返信面の表に受講される方の郵便番号・住所・氏名をご記入の上、下記の宛先にお送りください。

送付先：〒734-8558 広島市南区宇品東1-1-71　県立広島大学地域連携センター「公開講座　日本文化」係

【申込期限： 6月30日（月）まで】

※お申し込みにあたってお寄せいただいた個人情報は、県立広島大学公開講座のご案内以外の目的には使用しません。

講座に関する問合せ・連絡先：県立広島大学 地域連携センター　✉kouza@pu-hiroshima.ac.jp
☎082-251-9534